

古波津会長を 「優秀経営者顕彰」

親子2代受賞は沖縄初 日刊工業新聞社

INDEX

3 災害廃棄物処理で商事が貢献

4 TOPICS

年頭祈願・初荷式/日韓鉄鋼研究者32人が工場見学/拓伸会新年会・会長受賞祝賀会/翁長政俊名誉顧問が回顧録/薩南がキロチンプレス機竣工式/球陽中サイエンス部の報告会/ゆし豆腐づくり&おからの活用ワークショップ etc.

12 連載「拓南余話」②⑩

「うりづん」

おれつむ、うりづみともいう。大地が深い、夏の種が出る時節のこと。『沖組語辞典』(研究社)より

拓伸会会報(隔月発行)

〒900-0025

沖縄県那覇市壺川3の2の4 [拓南ビル3F]

拓南本社内『たくしんNEWS』編集委員会

TEL.098-831-8228 FAX.098-832-0586



日刊工業新聞社(井水治博代表取締役社長)は、卓越した手腕で企業の成長や地域社会の発展に大きく貢献した中堅・中小企業経営者を表彰する「第42回優秀経営者顕彰」で、「地域社会貢献者賞」に拓南製鉄の古波津昇会長を選出した。1月22日に経団連会館(東京・大手町)で贈賞式を行った。創業者も1985年度に受賞しており、親子2代の受賞は沖縄で初めて。全国的にも珍しいケースだ。沖縄出身の被表彰者は、古波津会長で6人目になる。



日刊工業新聞社の井水社長より授与

古波津会長が受賞した「地域社会貢献者賞」は「地域の繁栄に寄与した活動実績があるなどの功績を残している経営者」「ビジネスを通じて地域経済活性化や公的機関・団体役員として地域社会の発展と地位向上に著しい貢献をしている経営者」を対象とし、「狭き門」といわれる選考が重ねられ、選出される。

エコシステム構築など評価

選考委員長の石村和彦氏は、産業技術総合研究所(産総研)の理事長兼最高執行責任者だ。産総研は、国立研究開発法人で、経済および社会の発展に資する科学技術の研究開発を行う日本最大級の公的研究機関。「社会課題解決」と「産業競争力強化」をミッションとしている。

古波津会長は、資源循環のエコシステム構築で事業を拡大、県工業連合会会長を務めるなど、地域経済の活性化の取り組みが高く評価された。

経団連会館での贈賞式には、拓伸会から小湾正博副会長をはじめ、拓南製鉄の八木実社長、拓南製作所の本郷吉社長、拓伸商事(大阪・福岡)の大城秀政社長、拓南本社人事部の比嘉洋輔次長、総合企画部の島袋緑課長代理、屋我齊菜子秘書が随行し、喜びの場に立ち合った。写真上参照。

「狭き門」から堂々と受賞

拓南本社総合企画部課長代理 島袋 緑

贈賞式の席上、選考委員長である産総研の理事長兼最高執行責任者の石村和彦氏より、選考に際しての報告がありました。石村氏は次のように述べておられます。
 「昨年8月1日〜9月20日までに事務局にて推薦を受け付け、63件の応募件数があった。ただし、63件に至るまでに各地で選考があり、研究機関や金融機関などで10数件の推薦があり、それを絞り込んだうえで事務局への推薦となった。従って、この場にいらっしゃる方々は狭き門をくぐり抜けた、甲乙をつけがたい優秀な経営者と言える方々ばかりである」



《1頁よ》古波津会長のお嬢様も受賞を喜び、表彰所を手にする会長を見つめる表情に特別な思いを感じました。ご家族はまた、1985年度に受賞した創業者に思い

『拓鐵興琉』実践 役職員の誇り

拓伸会副会長 小湾正博

この度は、日刊工業新聞社主催の「優秀経営者顕彰 地域社会貢献者賞」の受賞、誠にありがとうございます。

この賞は、沖縄県では古波津清昇創業者が1985(昭和60)年度の第3回贈賞式で初めて受賞されてから、40年後に親子2代での快挙となり、全国的にも数少ない事例とのことでした。

また、受賞時のお歳が創業者と同じく満62歳であったことも、偶然とはいえ素晴らしい出来事であると感じます。

沖縄県では、過去42年間で古波津昇会長が5人目の受賞となりました。これは、創業者の掲げた

をはせていたようで、こちらも含めて感慨深いひとときとなりました。創業者ご夫妻がご存命でしたら、この受賞をだれよりも喜んだことでしょう。

「拓鐵興琉」の理念のもとに、古波津昇会長が自社のみならず、地域社会の発展にも寄与され、沖縄県の製造業があるべき姿を追求し実践されてきた結果、業界から認められた証だと考えています。

このような素晴らしい賞を受賞されたことは、私たち拓伸会の全従業員にとって大きな誇りであり、今後の励みになることは間違いないと思います。

古波津昇会長におかれましては、今後も健康に留意されグループおよび業界の発展にさらにご尽力されることを心よりお祈り申し上げます。



古波津会長の実績を紹介する贈賞式資料

拓南製鐵の古波津昇会長が、日刊工業新聞社の第42回優秀経営者顕彰「地域社会貢献者賞」を受賞し、東京都の経団連会館で贈賞式が1月22日に行われた＝1頁参照。優秀経営者顕彰制度は1983年に始まり、沖縄関係では下記の6人が表彰されている。その中で「地域社会貢献者賞」受賞者は、創業者が初、古波津会長が5人目となった。

1985年度(第3回)古波津清昇氏(拓南製鐵)、87年度(第5回)仲村宏正氏(メイクマン)、96年度(第14回)呉屋秀信氏(金秀建設)、2007年度(第25回)國場幸伸氏(ザ・テラスホテルズ)、16年度(第34回)与那覇正俊氏(丸正印刷)。24年度(第42回)古波津会長。

贈賞式関連の写真、古波津会長の受賞を伝える記事等は下記の通り。(5～6頁に「受賞祝賀会」記事を掲載)



創業者の表彰盾(左)とともに



経団連会館(東京・大手町)で1月22日に開催

第42回「優秀経営者顕彰」 地域社会貢献者賞 古波津昇氏

「日刊工業新聞」令和6年12月24日付

拓南製鐵 代表取締役会長 古波津昇氏

「日刊工業新聞」令和7年1月22日付

地域社会貢献で古波津会長受賞

「沖縄タイムス」令和6年12月26日付

拓南製鐵会長に地域社会貢献賞

「琉球新報」令和6年12月27日付



担当した城間幸二副班長

災害廃棄物処理に貢献 本島北部で記録的な大雨

拓南商事

迅速な支援で現場をサポート

城間幸二副班長らが奮闘
営業本部長 名嘉貞治

昨年11月上旬、沖縄本島北部で記録的な大雨が降り、水害が発生した。拓南商事は、国頭村・大宜味村・東村から災害廃棄物処理に関する支援要請を受け、迅速に対応した。そのようを、名嘉貞治営業本部長が寄稿してくれた。

11月20日13時30分付で、社内速報「北部豪雨災害現場確認および国頭村役場依頼案件について」を発信しました。そこでは、次のように「総括」しました。

11月9日未明から明け方に北部地域(国頭村・大宜味村・東村)を襲った集中豪雨により、床上浸水による水害が発生、18日に国頭村より直接連絡があり、鉄スクラップや家電製品の廃棄方法について相談があり、本日、現場

調査を実施。

有価物や家電リサイクル対象品については、来週からでも集荷スタート可能だが、これ以外の廃棄物については、国頭村との契約締結を要すること、沖縄県産業資源環境協会を一部窓口にすることもあり、業者選定等時間を要することが予想される。

鉄屑は見積書提出、家電リサイクル対象品は14番券対応で分別次第、引取依頼あり。ただし、家電運搬は国頭村との収運契約を締結する必要あり。

依頼を受けた災害廃棄物(鉄くず・家電類)については、25日の週あたりから人員を派遣し、選別・集荷を予定しております。

担当の城間幸二副班長は、資源回収班(外回り現場引取)から営業部に配属されたばかりで、今回の災害廃棄物対応は初めての大きな案件でした。営業の先輩にも相談し、他部署との連携を取り進めた事案となりました。

城間副班長は、国頭村、大宜味村、東村とのやりとりや、被災された方々の声を現場で聞くなどして、災害復興に向けて懸命に対応し、村



民からたいへん喜ばれました。特に国頭村比地地区では、廃棄物の分別指導や処理方法に関するアドバイス、当社による引き取り・段取りなど、迅速に対応しました。

城間副班長の体験は、拓伸会で共有すべき貴重な財産でもあります。そこで、インタビューを行い、下記のコメントをもらいました。

現地の状況に即して提案

「災害発生から4日後、国頭村から土砂災害による鉄スクラップや小型家電、家電リサイクル対象製品の処理方法に関する相談が寄せられました。」

現地では大量の廃棄物が集積場所に搬入され、適切な処理が急務となっているようでした。そこで、現地職員に対して分別方法や区画

分け、危険物の保管・管理方法を詳細にアドバイスしました。担当職員は限られており、廃棄物集積場所の管理が手薄になることが予想されました。

翌日に現地を訪れ、できる限りの支援を行いました。現地の状況に即した分別方法や保管方法を提案しました」

チームワークで難局に対応

「災害現場での分別作業には重機を持ち込み、資源回収班の名城謙班員が分別しながら、トラックまで積み込みました。」

集積場所は悪臭に加え、混

合になった災害廃棄物には何が入っているか分からない状況もあり、本人の忍耐と技量がなければ迅速に集荷まですることができませんでした。

引き続き支援が必要

また、廃家電の分別作業には家電班の職員も駆けつけ、現場での作業に尽力しました」

「現在も、比地地区では住居の復旧が進まず、一部の村民は避難生活を続けています。2月には未処理の災害廃棄物の処理依頼もあります。家屋や車など多くの財産を失った住民にとって、一刻も早い復旧が求められています」

今回、拓南商事が現場訪問をした回数は19回、使用した車の台数は10台(国頭村6回、大宜味村2回、東村1回)、重機投入台数は1台、動員人員は14人でした。

処理した災害廃棄物は、国頭村が鉄スクラップ8343キ口、小型家電2142キ口、廃家電245台、大宜味村が廃家電16台、小型家電100kg、東村が廃家電118台でした。



※トピックス欄に載る名称、人物の肩書などは記事を主軸として活用するため原則として当日のものとなります。

大きな拍手に包まれ初荷式

伏見稲荷・産業之宮で年頭祈願 拓伸会

拓伸会および協力企業合同による年頭祈願および初荷式が1月4日7時45分から、拓南製鐵本社中部事業所で行われた。前年に引き続き好天に恵まれ、日の出の陽光が式典中に差しこんだ。

業之宮で行われ、拓南製鐵、拓南商事、協力企業の社員約300人が参加し、式典もようを会員企業へリモート配信した。

式典では、沖宮の日置神職が修祓の儀、祝詞奏上を行い、拓伸会の古波津昇会長、念頭祈願は、伏見稲荷・産

業之宮で行われ、拓南製鐵、拓南商事の川上哲史社長、拓伸商事(大阪) (福岡)の大城秀政社長、鐵鋼処理産業の宜本徹社長、泉産業の泉川綾香氏、拓南製鐵の本部賀代子監査役が玉串奉奠を行った。続いて年頭訓辞が行われ

新年も「拓鐵興琉」の精神で

皆さんとこうして新年を迎えられたことをうれしく思う。

サーキュラーエコノミー(域内循環)を淡々と行いながら沖繩の経済を良くして

社会に必要とされている証

さきほど、伏見稲荷に、拓伸会役員員の安全衛生、社業発展を祈願した。産業之宮には、見守ってくださいている創業者ご夫妻に感謝を申し上げ、私たちが一丸となって

いをした。古波津会長長の「地域社会貢献者賞」1152、556頁参照は、拓伸会が社会に必要とされている証だ。今年も、一緒に頑張っていこう。

7月に新たな管理事務所

当社は、昨年、冷蔵庫リサイクルラインの更新など、サイキュラーリサイクルをさらに強化し、離島を含む県全体のリサイクルにまい進した。

今年、新たな管理事務所が7月に完成し、分散していた業務の連携を図る。津波避難タワーも建設し、地域に貢献する。拓伸会各社の皆さまとの一層の連携強化をお願いしたい。

連携を深めさらなる成長を

拓南製作所 代表取締役社長 本部紹吉

合併以来、シナジー効果を、出そうと呼び掛けてきたが、昨年の3事業所改編後、連携がやっと取れるようになった。このように助け合っ

て事業に取り組んでいけば、まだまだ成長していけると確信している。新年も引き続き、連携を深めていこう。また、今年から、糸満ヤードの鉄筋加工業務、デッキプレート製造が始まる。安全衛生面でも一致団結し、頑張っていこう。

県外3社が協力して貢献

拓伸商事(大阪) (福岡) 代表取締役社長 大城秀政

今年も、昨年に引き続き、資材の供給面、拓伸会各社製品の販売を強化する所存だ。拓伸商事大阪、福岡、薩南

力をお願い申し上げる。拓伸会各社の一層のご協力を。

「初荷式、メッチャきれいです」

式典はその後、拓南商事の平田副社長による「社訓唱和」が行われた。

社総合企画部の上原康志部長が務めた。

終了後、初荷式に移った。参加者は、正門周辺へ移動し、新春の朝日を浴びながら、原料入荷と鉄筋出荷の「初荷」のトラック列に向けて大きな拍手を送った。スタッフとして初めて初荷式を体験した拓南本社の平田星来さんは「メッチャ、きれいです」と感嘆していた。初荷式の司会は、拓南製鐵営業本部営業部の比嘉正毅次長が務めた。



日の出の陽光のもと、日置神職による修祓の儀



玉串奉奠



初荷式



古波津会長による年頭訓辞



Korea-Japan Workshop on Science and Technology in Ironmaking and Steelmaking で、商事・製鐵の工場見学が日程に組み込まれた＝中部事業所2階会議室

商事・製鐵で 工場見学

日韓鉄鋼研究ワークショップ ①

鉄鋼関連の国際学会が1月に県内で開催され、拓南商事・拓南製鐵の工場見学が日程に組み込まれた。窓口として対応した拓南本社技術開発研究室の知念響室長に寄稿してもらった。

日韓研究者32人が高い関心

拓南本社技術開発研究室室長 知念 響

1月5～7日に恩納村で日韓鉄鋼研究ワークショップという国際学会が開催され、学会活動の一環として7日に拓南商事および拓南製鐵の工場見学を行いました。日韓鉄鋼研究ワークショップは日韓2カ国の、金属精錬反応や介在物制御、凝固反応を専門とする研究者で構成される国際学会です。

このような国際学会は開催地での見学会を含むことがあり、今回は日本から東大、東京科学大、東北大等、韓国から高麗大、浦項工大、大仁荷大等の研究者32人が工場見学に参加しました。

見学者に英語で説明

今回は通常の工場見学とは異なり、案内時に行う見学者への説明を英語で行う必要がありました。拓南商事では通訳を1人配置することで対応し、拓南製鐵では、あらかじめ作成した英文を読み上げることで対応しました。

準備時点ではきちんと伝わるか不安な面もありましたが、実際の見学では大いに興味を持っていただけよう。日韓双方から時間が足りなくなるほど多くの質問が出ていました。

また、見学後の質疑応答でも多くの質問をいただき、スクラップ中の鋼・錫濃度の傾向、直送時の高温脆性対策、家電系非鉄スクラップに関する他産業との連携状況等について議論しました。

今回の工場見学は初めての試みが多く、現場での案内や会議の進行、役員あいさつ等でグループ内の多くの方



にご協力いただきました。ありがとうございました。今後もこのような学会活動への協力を通して学術界との交流を深め、将来的な研究開発に活かしていきます。

令和7年新年会

優秀経営者顕彰受賞祝賀会 拓伸会

拓伸会は、令和7年新年会ならびに古波津昇会長の優秀経営者顕彰「地域社会貢献者賞」（日刊工業新聞社主催）1～2頁参照の受賞祝賀会を1月31日、沖繩ハービービューホテルのアイランドブリーズで開催した。会員企業（執行役員以上）、協力企業代表などから47人が参加した。新年の躍進をお互いに誓い合い、古波津会長夫妻を祝賀した。

席上、拓伸会役員互助会の 副会長の代理が開会のお話、川上哲史会長（小湾正博拓伸）いさつに立った。



屋我秘書から花束贈呈

「役員新年会は5年ぶりだ。古波津会長が創業者に続き受賞したお祝いをしながら、皆で、仕事始めにカリーを付けていきたい。鳥嶼県である沖繩が、脱炭素の日本となるような地域になるよう、タッグを組んで今年も頑張ろう。」
続いて、山内公認会計士事務所の山内眞樹氏が来賓祝辞を述べた。
「2代にわたって大きな賞を受けられたことは、偉業だ。私の心の中で、点と点、それが一つの線になった。これからも、社是の『拓鐵興琉』を実践されていくと思う。心からお祝いを申し上げる。」
《6頁へ》



山内氏



川上互助会会長

皆で遺志を引き継いだ成果

《5頁より》

古波津会長があいさつに立った。

古波津会長はまず、「鉄筋の全国の需要が、今期は630万トンと見込まれている。そのうち、拓南製鐵は2%余を供給している。創業者もその比率を誇りとしていた。沖繩で造れるものはしっかりと供給していくことが、地域経済にとっても大切だ」と、サーキュラーエコノミー(域内循環)の意識を高める必要性を強調した。

そして、沖繩では初めてで、全国でも例が少ない2代にわたる「地域社会貢献賞」受賞について次のように述べた。

「拓伸会の皆様は、『拓鐵興琉』という創業者の遺志を引き継ぎ、しっかりと守ってきたことが、現在の拓伸会、今回の受賞につながった。あらためて皆様に感謝を申し上げる。各社の従業員の方々にも

感謝を伝えていただきたい。100年企業に向けて、次なる商品開発を皆で考えていこう。ご協力をお願いしたい」

あいさつ後、拓南本社の屋外香茅子秘書が花束贈呈を行った。

乾杯に移り、拓南製鐵の八木実社長が次のように述べ、「われわれ役員にとっても誇らしい受賞だ。グループ各社の社員も、地域社会に貢献しているトップの働きを知って、誇りに思い、モチベーションが上がっているだろう。本日の新年会と祝賀会を契機として、拓伸会を盛り上げていこう」

サプライズの演出に拍手

その後、ステージ上のスクリーンに、この日に合わせて作成した記念動画が映し出された。

動画ではまず、東京の経団連会館における古波津会長の受賞シーンをはじめ、選挙委員長のあいさつ、式典参加者との記念写真など贈賞式当日の様子が流れた。次いで、黒島善茂元拓伸会名誉会長、拓南商事の川上社長、拓伸会各社役員からの受賞を喜ぶお祝いのメッセージが贈られた。サプライズの演出に会場から大きな拍手と歓声が湧いた。

1月末日の夜の和やかなひとときを参加者は共有し、新年に向けたキックオフとなった。

司会は、拓南本社総合企画部の上原康志部長が務めた。



八木社長による乾杯

歓談タイムの後、拓伸会の翁長政俊名誉顧問が祝辞を述べた。

翁長名誉顧問は、「お祝いの言葉を述べた上で、「今後100年企業を目指すためには何が一番大事か。それは、社員の皆様、特に役員の皆様へのモチベーションと頑張りを、100年企業を

目指す基礎になるだろう。やはり、会社経営は人だ。人が財産だ。皆様には、そういう意識をもっていていただきたい」と激励した。

さらに、翁長名誉顧問は、「企業経営は情報がカギを握る。あちらこちらに皆様が顔を出し、なるべく生で一番早い情報を取る。それが、ビジネスチャンスにつながる。それぞれ、ウイングを広げてほしい」とアドバイスした。

『沖繩保守の矜持』翁長政俊回顧録

翁長名誉顧問が発刊

拓伸会の翁長政俊名誉顧問が11月30日、『沖繩保守の矜持』翁長政俊回顧録(新潮社)を発刊した。

翁長氏は、戦場の最前線に立つこわもてな指揮官のようなイメージを持たれたが、一読すると、誠実な素顔に気づく。時系列で状況をしっかりと記憶(記録)しており、自慢話や誇張した表現などが全くない。文体も、政治家のものではなく、資料になるにちがいない。

「沖繩保守」の苦悩

翁長氏は、「沖繩保守」が目指すものについて、次のように記している。

「地位協定から派生する、治外法権的な米軍の振る舞いに対する怒りを県民と等しく共有して、基地の整理縮小を実現させる。それによって日米安保体

制を安定的に運用できるものとし、ひいては日本の安全保障に貢献する」

その上で、「沖繩保守」の苦しみを正直に吐露している。

「本土の保守と沖繩の保守が目指す理念は、そもそも立ち位置が異なる。



基地から発生する様々な問題に対する県民の思いを受け止めないことには政治が成り立たないのだ。安全保障のために基地負担を甘んじて受け入れろとの議論は沖繩では通用しない。基地問題をめぐり沖繩保守は、本土の保守とは自ずと一線を画さざるを得ない。しかし、このことに対する本土の保守の理解は少なく、私たちが苦しんできた」「沖繩保守は、沖繩における米軍基地をそのまま肯定しているわけではない。これまで幾度も過重な負担を軽減するよう強く求めてきた。しかし、そのことをマスコミがまともに書いてくれない。そこにずつつと歯がゆさを覚える」

菅元首相のメッセージ

単に批判にとどまるのではなく、解決に向け、高い妥協点を模索していく道のりは苦しい。そんな「沖繩保守」の中心人物の一人として激動の時代に悩み、葛藤し、アグレッシブに行動してきた翁長氏に、元首相の菅義偉氏は、同著の「帯」に次の一文を寄せている。

「翁長政俊さんこそ、沖繩保守を体現する政治家です」

回顧録の「あとがき」は、次のように締めくくっている。

「最後に妻・越子と三人の息子たちにも感謝を伝えなければならぬ。選挙は勝つ時は良いが、負け時は候補者だけでなく家族も辛いものがあるはずだ。苦勞をかけたままだった。それでも家族がいるから頑張れた。ありがとう」

ギロチンプレス機 竣工式

陸南物産

1



ハイブリッドギロチン

陸南物産は1月17日、ギロチンプレス機の竣工式を行った。拓伸会関係者など約30人が出席し、谷山神社宮司のギロチン清め払いに始まり、古波津昇社長、渡辺組の渡辺紘起会長、モリタ環境テック斎藤敬士課長の3人が玉串奉納を行った。

日高勝副社長は、次のように振り返った。

「昨年5月の安全祈願祭後、ギロチン台座の基礎工事が順調に進み、10月中旬に終わった。約1カ月の養生期間をおいて、11月下旬よりギロチン本体の据え付け、保護カバー取り付け、作動確認などを計画通りに実施し、1月中旬に終了した。竣工式後、稼働式を行い、古波津会長が起動スイッチを押すと鉄屑の移動が始まり、ギロチンの刃が静かに降りてくると、大きな音とともにH鋼が切断された」



「産業新聞」令和7年1月28日付

「産業新聞」令和7年1月28日付

省エネ・安定操業を強化

陸南物産せん断機更新

業界紙「産業新聞」(1月28日付)によると、竣工式で古波津会長は次のようにあいさつした。

「会社も自立して安定的な経営ができるようになったことから(ギロチンプレス機の)更新を決めた。安定的かつ品質も高め、地産地消として近い地域内で循環させることでサーキュラーエコノミーを推進し、地域へのさらなる貢献を進めたい」

同紙の見出しは「陸南物産、せん断機更新」「省エネ性・安定操業を強化」。



危険予知トレーニングを実施

西原グリーンセンター

12

西原グリーンセンターは12月17日、拓南本社安全統括室に依頼してKYT教育(危険予知トレーニング)を実施した。ショートコースの整備に関するトラック作業でヒヤリハット事例が発生したことによるもの。そこで、参加した大田司職長代理に感想を寄稿してもらった。

危険予知を妨げる慣れや油断

職長代理 大田 司

今回、KYTの講義を受け思ったことは、普段頭では分かっていたり、理解しているはずでも、慣れや油断、慢心などで危険予知ができていないことを思い知らされました。

何が危険で、どんな行動が危ないことなのか分かっていないのに、「大丈夫だろう」「今までもできていたから」と危険な行動をしたことが、今までのヒヤリハットにつながっていました。

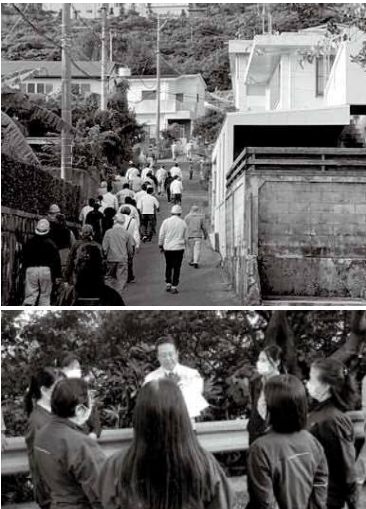
日常生活における車の運転と同じで、常に危険を予測し、スムーズかつ慎重に業務を行うことが本場のプロなのだと感じました。

業務上、機械の操作など危険な作業は多々あります。今回受けたKYTの講義を思い出し、慎重に手早くプロの仕事を目指し、これからも業務に取り組んでいこうと思えます。



不安定行動防止のために

人は不注意などにより不安定行動を引き起こします。不安定行動防止のためには、4ラウンドの危険予知トレーニングと指差し呼称で確認することは大切です。今回のトレーニングでは、みんなでその重要性を共有しました。(拓南本社安全統括室室長 長濱直次)



初めての避難訓練

拓南製作所

12

拓南製作所は12月7日、全従業員および協力業者による初めての避難訓練を実施した。

今回の訓練は、地震とそれに伴う津波を想定し、避難経路の確認および安全な避難行動の習得を目的とした。業務部署課の知念直成課長は次のように振り返った。

「訓練当日は、安全衛生委員を中心に各部署が迅速かつ冷静に避難を行いました。避難時間は目標の15分を指し、各部署で計測した結果、早い部署で12分、遅い部署で19分という結果になりました。今回の訓練で得た課題を次回の訓練に生かし、実際の災害時に備え、引き続き安全意識を高く持ち行動していきたい」

美化活動ですががしく

拓南製作所

12

拓南製作所は12月23日、美化活動を実施した。本部紹介社長をはじめ役員、協力会社社員が総出で、会社前の海岸拾い、砂浜や緑地帯のゴミ拾いや草刈りを行った。

安全衛生者の西原誠次長は「天候にも恵まれてすがすがしい汗をかきました。60分ほどで、多くの漂流物やゴミ、草などを回収しました。村民の方々が気持ちよく海岸拾いをウォーキングなどできる環境となりました。回収したゴミは中城村役場で回収済みです」とコメントした。



製鐵を救急ステーションに認定

沖繩市消防本部



沖繩市消防本部は12月20日、拓南製鐵への救急ステーション認定証交付式を中部



(左から)親富祖部長、山内専務、知念副社長、八木社長、鳥袋消防長、喜友名消防署長、名嘉警防課長

事業所2階会議室で行った。

沖繩市によると、救急ステーションとは「救命講習終了者の常時駐在、AEDの設置など要綱に規定する基準を満たし、当該制度の認定を受けた事業所」のこと。拓南製鐵には、上級救命講習の終了者が3人(富山瑞樹氏、玉城齊氏、勝連暢也氏)いる。救急ステーションを活用した救護活動等により、市民が安心・安全に暮らせる環境を整備し、救命率向上につなげる。交付式は、沖繩市消防本部消防署長の喜友名朝善氏が開会の辞を述べた後、司会の平良久美子氏(沖繩市消防署警防課救急係長)が列席者の紹介、救急ステーション認定にいたる概要を説明した。認定書交付式では、消防長の鳥袋健氏が八木実社長に認定書を手渡した。

続いてあいさつに移り、山



中部事業所2階会議室で交付式

内昌博専務が「今回の認定を受け、本地域の安心・安全に暮らせる環境の整備に、これまで以上に努めてまいります」と抱負を述べた。

一方、鳥袋氏は「救急ステーションは、心臓突然死を防止することを大きな目的としている。地域住民が安心・安全に暮らせるため、認定申請しただけで満足せず、申請し上げて」とあいさつした。

閉会の辞は、警防課長の名嘉雅之氏が務めた。



安全衛生パトロール実施

拓南本社



拓南本社は12月12日に年末の安全衛生パトロールを実施した。本社安全衛生委員会のメンバーが参加し、たくさんパーキング全階、拓南本社ビル事務所内というルートで巡回した。本社の安全衛生委員会による安全衛生パトロールは3回目。そこで、参加した安全統括室の入福福裕氏に感想を寄稿してもらった。

パトロールの意義を知る

安全統括室 入福福 裕

12月12日に、本社の安全衛生パトロールが実施され、今回初めて参加しました。これまでパトロールが行われていたことは知っていましたが、詳細は不透明で、「安全衛生パトロール」という言葉だけが自分の中で一人歩きしていました。普段から何気なく利用する駐車場や事務所内でも、社員の安全のために改善すべき点洗い出され、本社の安全衛生委員会の方々のおかげで働きやすい環境が整備されていく背景を知ることができました。私も、次回からはみんなのために、目を光らせてパトロールに従事していきたいと思っています。



研削砥石特別教育を実施

拓南製作所



拓南製作所は12月25日、研削砥石特別教育を社内内で実施した。講師は、安全管理者の西原誠次郎、拓南本社安全統括室の長濱直次室長が務めた。そこで、受講した防錆事業所めつき班の新垣嗣人班長に感想を寄稿してもらった。

動作確認の必要性を学ぶ

防錆事業所めつき班班長 新垣嗣人

グラインダー講習を受けた。また、物を切る際には、刃の中心より右側で切ることも学びました。仕事で、何気なく使っているグラインダーでしたが、こんなにも動作確認をしなければならないと使用してはいた。このことを学び、驚きでした。このグラインダー講習で学んだことを生かして、これからの仕事に励んでいきたいと思っています。



「指差し呼称」勉強会 実施

拓南製鐵



拓南製鐵は1月22日、「指差し呼称勉強会」を2階会議室で実施した。目的は、今年度の安全衛生重点事項である「指差し呼称の向上」のため。

拓南製鐵32人、拓南本社2人の計34人が参加した。富祖茂安全統括部長が中心となり、社員への指差し呼称の指導を行ってきた。しかし、動作のマンネリ化も見受けられたことから、改善策と

して、拓南製作所の西原誠次郎安全管理者(次長)を講師に招き、同社での実施状況も参考にした実践的な勉強会を目指した。勉強会後、企画実施した親富祖部長は、指導効果について、「急に変わることは難しいが、指差し呼称をしなければならぬ」という社員の意識が強く変わった」と感想を述べた。また、12月から拓南本社安

全統括室勤務となった入福福裕社員は「小さな事故でもそれを防ぐには指差し呼称が重要だと感じた。安全意識の向上を目的として、各社も勉強会を開催しても良いのではないかと思った。自分が所属する拓南本社では、指差し呼称をやる場所が限定的で定着が難しい面がある。しかし、今回の勉強会で学んだことを踏まえ、私もできることから始めていきたい」と決意を語った。



「指差し呼称」と大きな声で指し、唱和を行った。



「心理的安定性」テーマに長期研修

拓伸会人事課



拓南本社人事課は2024年4月から9月、100年企業に向けて「心理的安定性」をテーマにした長期研修を拓伸会会員企業対象に実施した。

4月〜7月時期は、西原G C・拓伸商事福岡を除く各社部署別に、管理職部長から事務所管理スタッフを対象にグループワークを行った。7月〜9月時期は、県の支援事業を介して外部講師(オー・アンド・オーコミュニケーションズ)を招き、各社部署部長を中心に「心理的安定性や社員への対応の仕方」の研修を拓南製鐵2階大会議室で計3回実施した。

比嘉洋輔次長は「本年度に、



「酸化スラグで大きな成果が」

球陽中サイエンス部が報告 拓南製鐵

2月

沖縄県立球陽中学校サイエンス部アクアポニックス研究チームの報告会が2月7日、拓南製鐵(中部事業所2階会議室)で開かれた。テーマは「アクアポニックスシステムの探求と活用」鉄鋼スラグで野菜が大きくなる!?」。同研究チームは、酸化スラグの提供を拓南製鐵から受け、実験に活用している。司会を務めた拓南本社技術開発研究室の知念響室長によると、これまでに科学展で受賞するなどの成果が出ていることから研究内容を報告してもらった機会をつくったという。報告の中で「酸化スラグで大きな成果が」という発表があり、聴講した役員約40人が感心した。

開会にあたり、山内昌博専務があいさつに立った。「当社のスラグを使った研究で名譽ある賞を受賞された」と聞き、喜ばしく思っている。今回の報告を興味深く聴講させていたたくしん。報告に臨んだのは同チームの6人(引率者・顧問の大城拓馬教諭で、演台の前に代わる代わる立ち、解説した。同チームが開発しているアクアポニックスの独自システムとは「水生生物を飼育(養殖)しながら、その排泄物を野菜の養分として利用し、水を循環させながら水生生物と野菜を同時に育てる養殖農法のシステム」。目標として、SDGs「飢餓をゼロに」の実現、消費量より生産量が少ない沖縄農業の課題解決を掲げている。

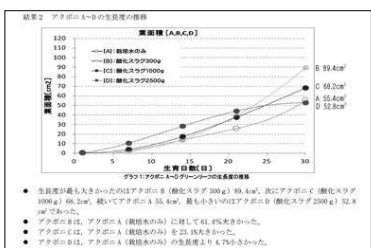
研究を進める中で、令和6年度はこれまで育ててきたグリーンリーフより大きく育てる栽培方法を模索するため栽培水中の金属に注目。

グリーンリーフが大きく育つ

報告会では、「酸化スラグをアクアポニックス装置に投入してグリーンリーフを栽培してみよう」「酸化スラ



球陽中アクアポニックス研究チームの皆さんと



報告会では、「酸化スラグをアクアポニックス装置に投入してグリーンリーフを栽培してみよう」「酸化スラ



代わる代わるに報告する6人(1人はパソコン操作)

拓南製鐵の)製鋼過程で生じる鉄鋼スラグが海域藻場を造成することを知り、独自のシステムに応用できないか研究した」という。

グ300グラム、150グラム、50グラムを装置に投入した場合のグリーンリーフの生長を調べよう」などの実験について、目的、実験手順、結果、考察、成果と課題、展望について解説した。

その中で「酸化スラグを栽培水に活用することでグリーンリーフが大きく育つことを発見したことは大きな成果である」「栽培水質量の約0.25〜1.5%の酸化スラグ量がグリーンリーフを最も大きく生長させる適切な量である可能性がある」「酸化スラグを投入しても、食的安全性に一定の評価が得ら



質疑応答では突っ込んだ質問も

れたなどの成果を発表した。一方で、「野菜の生長を促進させた酸化スラグから溶出した成分(金属化合物)の追究」などの課題も挙げた。報告の後、質疑応答があり、会場から「なぜ水耕栽培に着目したのか」「水耕栽培は経費がかかると思うが、農業への展開をどのように考えているのか」「海ブドウの養殖で酸化スラグを用いたとき、水面が白濁してしまっ

つきましても、さまざまな研修コンテンツなどを提案し、各社の働きやすい職場環境整備に向けて尽力してまいります。引き続き、提案ならびにご指導をよろしくお願ひいたします」と抱負を述べた。

アンケートより抜粋した受講者(匿名)の感想は次の通り。「部下とのコミュニケーションの取り方、組織内での存在や重要性等を承認してあげられる環境を作らなければなら

か」など、中学生相手とは思えぬ容赦のない質問が飛んだ。その一方で、「いろいろな角度から研究されていて感心した」「沖縄は葉野菜が少なく。その着眼点に感心した」「自分の力で考えることは重要。きっと社会に求められる人材になる」などの感想や激励もあった。報告会の最後に、6人の発表者にそれぞれ、今回の研究についてコメントしてもらった。

「コミュニケーションをとることはやはり難しいと感じた。部下としっかりと向き合い、理解していく努力が必要だと感じたので、まずは部内のミーティングの在り方から考えていきたい」

しきは格別だ。この研究をやつてよかった。門口侑久さん(2年) 人前で話すのが苦手だったが、このような発表の場を得られ、よい経験ができています。

9月から参加し、レポートづくりに打ち込んだ。見守ってくれる先輩たちがいて、得難い体験ができた。上地理子さん(2年) 先生をはじめ、皆さんと一緒に分かったことがたくさんあった。達成感があり、良い経験ができた。

*安里昌朔さん(3年)、ガールシア琉菜さん(2年)は病欠のため、不参加。

令和6年度研究で、同チームは、日本学生科学賞沖縄審査委員会・読売新聞社賞、「沖縄県児童・生徒科学賞作品展・最優秀賞」、「中谷財団成果発表会・ベストセレクト賞」を受賞している。また『日経サイエンス』(3月号)でも紹介された。



菜の花マラソン大会に参加

薩南物産の朝山由紀子さん(営業統括部業務課主任)、金田温子さんから「いぶすき菜の花マラソン大会に参加しましたよ」というお便り(寄稿)が届きました。お二人は「健康経営推進活動のひとつである運動習慣向上のため、目標があった方が継続できると思い、フルマラソンへの参加を決めました」とのこと。残念ながら26キロでタイムオーバーに遭遇してしまいましたが、寒い中、手応えのあるひとときを過ごしたようです。

体が芯から温まった味

薩南物産 朝山由紀子 金田温子

1月12日、9時スタートの少し前から雨が降り始め、気温は6度と寒いなかのスタートとなりました。スタート地点は、ふれあいプラザなのはな館(鹿児島県指宿市)で、総勢9400人が参加しました。

走り始めてすぐに最初の坂が現れ、その後も、次から次へと坂が出てきて、早くも足はパンパンになりました。池田湖を通過する頃、いったん雨が止み、晴れ

雨にもかかわらず、沿道には応援してくださる方々がいて「おめでとう日本一」といわれるだけあり、豚汁、焼き芋、焼き餅などがランナーに振舞われていました。なかでもうれしかったのは、通りかかった軽トラックの男性(昨年はランナーだったとのこと)が温かいコーヒーを差し入れてくださったことでした。冷え切った体が芯から温まり、本当にありがたかったです。かなり大変ではありましたが、体を動かすの



朝山由紀子さん



金田温子さん



は心と体の健康に良いことだとあらためて思いました。雨天での開催は12年ぶりだったそうで、来年は、快晴の中で参加したいと思いました。



「おからの活用で沖縄を元気に」

ワークショップ開催 拓南本社

拓南本社は2月6日、「ゆし豆腐づくり&おからの活用ワークショップ」をカエルびあなは(おきでん那覇ビル2階)で実施した。拓伸会で取り組んでいるSDGsや健康経営の推進につながる企画で、講師は、Okararaの崎濱花鈴氏と知念杏珠氏が務めた。参加者19人、運営スタッフ3人の計24人が参加した。

おからは、島豆腐の製造に伴って大量に発生する副産物(排出物)。Okararaは、そのおからを使って環境に優しいスプーン「パークーン」などを開発し、古波津製業育成基金の令和4年度技術功労賞を受賞している。

おからで「ソーシャルビジネス」

おからは、島豆腐の製造に伴って大量に発生する副産物(排出物)。Okararaは、そのおからを使って環境に優しいスプーン「パークーン」などを開発し、古波津製業育成基金の令和4年度技術功労賞を受賞している。

調理と試食の前後に、崎濱氏と知念氏が講話を行い、「おからの活用で沖縄を元気に」と強調した。講話の中で両氏は、おからが大豆由来のスーパーフードであること、しかし、県内で年間1000トンも廃棄処分になっている実態を紹介。SDGsの一環としてOkararaが取り組んでいる諸活動を解説し

尊敬と応援する気持ち

運営スタッフは、総合企画部企画管理課の瑞慶山尚子課長代理がディレクターを務め、ESG推進室の花城可人次長、田名俊徳氏がサポートした。瑞慶山課長代理は、次のように感想を述べた。「Okararaは、大学在学中より、県内のお豆腐屋さんで大量に廃棄されるおからについてさまざまな取り組みをされており、古波津製業育成基金を通してお話を聞く機会がありました。聞く度に、尊敬と応援する気持ちが大きくなります。今回参加した皆さんもきっと、私と同じ気持ちになっていてと思います。運営スタッフとして拝見した参加者の皆さんの様子は、終始にぎやかで、講師の2人とお話をできる時間が多々あり、講話中に涙する場面も見られました。

開催趣旨にご理解いただき施設使用を快諾くださったさいま長カエルびあなはの富濱館長様をはじめ、講師、スタッフの皆様のご協力、参加してくれた拓南本社の皆さんのおかげで有意義な時間となりました。本当にありがとうございました」



「おからポーズ」で記念撮影



いよいよ実食開始



講師の崎濱氏(左)と知念氏

速報!

第38回工場見学会

開催

拓伸会

2



拓伸会は、リサイクルを通し、ゼロエミッション社会の実現に貢献しているグループ各社の活動を広く周知するため、第38回工場見学会を2月14日に開催した。

開催前に、ディレクターを務める拓南本社総合企画部の又吉史也氏に新規の取り組みについてアピールしてもらった。

WG特設ブースでは、健康経営、TCNP、技術開発研究室で取り組んだ内容について掲示する。

健康経営では、健康経営の取り組みについて今回初めて全8社の内容をポスター展示する。他にも、スライドショーを流して過去の取り組みを紹介する。

TCNP(拓南カーボンニュートラルプロジェクト)では、脱炭素に向けて取り組

っており、太陽光パネルや電気自動車の導入などの内容を初めて紹介する。

研究成果では、拓南本社技術開発研究室・知念響室長の研究成果も初めて紹介する。

現在研究室で取り組んでいるテーマの紹介に加え、高強度鉄筋の強度向上メカニズムについて展示した。

本部の改善事項としては、アンケートのペーパーレス化や拓南製作所の紹介、物品の見直しも行う。

アンケートでは、初めてQRコードからのウェブ回答もできるようにする。

事前説明ブースでは、拓南製作所についても紹介し、3社の繋がりを知ってもらった。

物品の見直しでは、レンタル物品の数量を減らし、自社で備品を購入し削減をした。



(前列左より)長嶺孝哉さん(製造部家電リサイクル課家電班)、佐久川秀人さん(製造部家電リサイクル課OA班)、新城甲斐さん(工務部工務課工務班)

「新人おめでとう」
記念品贈呈式

拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所

拓南製鐵、拓南商事、拓南製作所は1月、新成人(2004年4月2日〜翌年4月1日生まれ)を対象に「記念品贈呈式」二十歳を祝う会をそれぞれ行った。各社の新成人のコメント、各社幹部の祝辞は次の通り。

拓南製鐵(1月22日)

知花勇真さん
「これから会社に、より貢献できるような頑張ります」
宮里友利斗さん
「いろいろと未熟なところもあるけど、仕事を通して成長していきたいです」
平良樹里亜さん
「大人としての自覚を持ちながら、これからも頑張りたいと思います」

池原琉星さん
「一人倍頑張って、会社に貢献できるように頑張ります」
平良侃摩さん
「一人の大人として自覚を持ち、仕事も私生活もレベルアップしていきたいです」
「お祝いの言葉 知念正元副社長」
成人おめでとうございませう。晴れの日を迎え、心から祝福します。これからの社会生活で、持ち前の努力と熱意を生かし、100年企業へ向けた取り組みと社会への貢献を期待しております。また、これからの人生が充実することや健康と安全への取り組みをお願いします。祝福のあいさつと致します。

東門希彦さん
「新成人として、自覚と責任を持って行動ができるように心がけていきたいです」
「お祝いの言葉 川上哲史社長」
「成人おめでとうございませう。学校を卒業し、拓南商事に入社してからの、これまで勤めてくれてありがとうございます。これから生きていく上で、さらに多くの仲間と出会い、関わっていくことになりませんが、仕事や日常生活の中でさまざまな課題や仲間との問題も出てくるでしょう。その中で、謙虚な姿勢を持ち続け、学び、教わって成長し、また相談をしながら成長していくことが大切です。そのように意識して仕事や生活に取り組んでいけば、自然と周りの人々も皆さんを支えてくれるはずです。皆さんがさらに成長し、充実した社会人生活を送れるよう応援しております。これからの活躍を楽しみにしています。」



(左より)山内昌博専務、宮里友利斗さん(加工センター)、平良侃摩さん(製造部製鋼班)、池原琉星さん(製造部圧延班)、知花勇真さん(製造部圧延班)、知念正元副社長 ※平良樹里亜さん(品質管理室)は、育児休暇中のため欠席

《言葉より》
きたいです」
「お祝いの言葉 本部紹介社長」

新成人を迎えられた皆さま、心よりお祝い申し上げます。この節目の日を迎えられたことは、これまで支えてこられたご家族や周囲の方々の愛情と皆さま自身の努力の賜物です。

これからは、新たな責任と可能性の始まりです。社会の一員として、自らの力で未来を切り拓いていくチャンスに満ちています。時には困難や迷いが訪れることもあるでしょう。しかし、それらを乗り越える経験こそが、皆さまを一層成長させる糧となります。

皆さまの挑戦と発展を心から応援しています。大きな夢を持ち、恐れずに行動し、共に明るい未来を築いていきましょう。



(前列左2人目より) 宜野座瑠輝さん(防錆事業所製造部製造課生産管理係めっき班)と、座貴哉さん(鐵構事業所鐵構部鐵構課)、平良虹輝さん(鐵構事業所与那城出張所)

酸素プラント導入記(9)

夕暮れのムードだけど

黒島 善茂

翌日ニューオリンスの工場へ行くためサンフランシスコ国際空港へ向った。視界に入ってきたのは目を見張るばかりの一大パノラマの空港ターミナルだった。

拓南余話②



トレーニング及び解体の打合せをしたジェイコブ副所長

これまで見てきた空港とは比較にならない。ビル内は大勢の人々で混雑しており、ニュースで聞いたことのあるアメリカン航空やユナイテッド航空などがメインにカウンターを構成しており、それを取り囲む形で10数社が居並んでいる。ノースウエスト社を探しニューオリンス行きのチケットを求めたところ、「当社ではその路線は飛んでいない。デルタ社へ行くように」と言われた。

デルタ社で次の便に乗りたいたい旨告げたところ「まもなく出発する便に空席があるので急いで乗りなさい」とチケットを渡された。ニューオリンスまでは4時間弱、到着は2時頃になり、ほどよい時間になるところが空港に降り立つ

て「おや？」と思った。何だかだいぶ陽が傾いて夕暮のムードが漂っている。どうにも解せないので係員に尋ねた。「シスコと当地では2時間の時差がある。現在の時刻は4時過ぎだ」と教えてくれた。そういえば沖繩を発つとき、アメリカは広いのでその場所によって時刻が異なるから注意するよういわれていたではないか。もしも空港でランチでもとっていたら夜到着ということになり、先日の二の舞を踏むところだった。まったく浅はかで思慮の足りない自分の至らなさに辟易した。ホテルはエアコ社(訪問会社)が予約していた。タクシーで乗り付け、終業時間が迫っているのでチェックインする傍ら電話を入れ、着いたことと明朝伺うことを告げ了解をえた。会社は喧騒と重機などが行き交う工業地域にあるのだらうとイメージしていたが、意外にも樹木に包まれた落ち着いたある閑静な住宅街のエリアにあった。工場を見学した後、副所長と明日からのトレーニングとスケジュールについて打合せをさせてもらった。(拓伸会 元名誉会長)

後編

北都大雨被害支援の名嘉レポート3頁をぜひ、読んでください。そこには、現地で奮闘した城間副所長による観察が次のように記されています。「集積場所は悪臭に加え、混合になった災害廃棄物には何が入っているか分からない状況もあり、本人重機による分別作業を行った名城班員」の忍耐と技量があれば、迅速に集荷まですることができました。忍耐と技量、その懸命な姿こそ、拓南マンの底力、拓南マンの矜持(誇り)ではないでしょうか。くっつきました。(鈴木)